



東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京コミュニティーセンター内 〒186-0002東京都国立市東1-4-20-102

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

ワイズの信条

1. 自分を愛するように隣人を愛そう
1. 青少年のためにYMCAに尽くそう
1. 世界的視野をもって国際親善を図ろう
1. 義務を果たしてこそ権利が生ずる事を悟ろう
1. 会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

1. 個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する
2. ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する
3. 地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する
4. 宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員達を啓発し、積極的に参加させる
5. 健全な交友関係を作り出す
6. この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

【2022～2023主題】

国際会長 Samuel Chacko (India)

主題: "Into the next 100 Years with FELLOWSHIP & IMPACT"
「フェロウシップとインパクトで次の100年へ」

スローガン: "BEYOND SELF and BE THE CHANGE" 「自己を超えて、変化を起こそう」

アジア太平洋地域会長 Chen Ming Chen (Taiwan)

主題: "Elegantly Change with New Era" 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

スローガン: "Doing It Right Now" 「今すぐ実行を」

東日本区理事 佐藤 重良 (甲府21)

主題: "Let's act now for the future" 「未来に向けて今すぐ行動しよう」

スローガン: "Do something for someone and have an enjoyable club life for yourself!"
「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを!」

あずさ部長 後藤 明久 (富士五湖)

部長主題: 『ワイズへの参加と交流を楽しもう』

副主題: とにかく参加しよう、リアルとズームで行動し発信しよう

東京武蔵野多摩会長 中村 吉孝

会長主題: 「未来に向けて、まずは会員増強から」

THE Y'S MEN'S CLUB
TOKYO
MUSASHINO TAMA



東京武蔵野多摩

CHARTERED 1983

2022年

9月の聖句

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である (ヨハネの手紙 I 第5章5節)

9月例会の予定

強調月間: EMC

日時: 9月14日 (水) 19:00~20:40

会場: 西東京センターおよびZoom

〈プログラム〉

司会: 小林 (会場準備: 宮内)

* 開会挨拶、点鐘: 中村会長

* 聖句朗読・説明: 江夏

* ゲスト、ビジター、メンバー紹介

* 卓話 森 郁子氏

「ポジティブ・ディシプリンの紹介」

* ハッピーバースデー

* 連絡、報告、にこにこ

* 閉会挨拶、点鐘: 中村会長

8月例会報告

出席者	0名 (中止)
在籍者	10名
メーキャップ	6名
出席率	60%
ゲスト (リーダー)	0名
ビジター	0名
メネット・コメント	0名

* 9月のハッピー・バースデー

23日 宮内さん

ファンド関係

にこにこ	今月度	累計
にこにこ	0	5,000
2次会にこにこ	0	0
メルカリ	1,115	3,215

IBC

Tsim Sha Tsui Y's Men's Club (香港)

Seoul Han Yang Club (韓国)

DBC

神戸学園都市ワイズメンズクラブ



[ワイズメンズクラブ紹介ページ](#)



[東京武蔵野多摩クラブWEBページ](#)



[Facebookページ](#)

【2022-23 クラブ役員】

会長 中村 吉孝
副会長 小林 文彦
書記 山口 直樹
会計 宮内 友弥

ヤングケアラーについて思うこと

山口直樹

最近、ヤングケアラーの問題が様々なところで聞こえてくる。新聞などでも取り上げられているので、聞かれた方も多いのではないだろうか。私も、今年に入って勉強会に何回か参加した。ヤングケアラーとは18歳未満で大人が担うようなケア(介護など)を行っているものとの定義である。少子高齢化が進んできていること、世帯規模が小さくなっていること、又共働き世帯の増加等により、介護の負担が子どもに及んでいることは想像できる。そのことにより、勉強や遊ぶ時間、その他子どもが持っている当然の権利が侵されていることが発生している。問題はそのことが、子どもが本来持っている様々な権利を侵してきているとのこと。子どもの成長に様々な影響を与えてしまうことが危惧されている。

また、なかなか表面化しにくい問題であるとのこと。子ども自身が、家族の手伝いをすることは当然と考えるのは当たり前のことであり、本人が問題と認識していないことも多いとのこと。家庭内の問題で表には出にくい状況でもあり、周りからの見えにくさも大きな問題である。一昨年くらいから国による実態調査が始まり、5%くらいいるとの結果が出ている。最近は様々な自治体やその他で調査が行われるようになったようである。ヤングケアラー支援の検討がいろいろとところで始まっているが、今は実態を探っているというところと思う。

根本的な問題は介護保険制度が実態に対応しきれていないことが大きな要因ではないかと私は思う。2000年に始まった介護保険制度は家庭での介護(主にお嫁さんが担っていたもの)を社会的介護に転換することを狙ったものと思うが、それが破綻してきている証ではないだろうか。そのような視点でこの問題を見ていくことも必要だと思っている。まだまだ問題の認識を広めていく段階であると思うが、今後も関心を持っていきたいと思う。

<卓話者紹介>



NPO法人きづく 代表理事
森 郁子 (IKUKO MORI)

正解が1つでないから、みんなと問い続けたい

ポジティブ・ディシプリンのカントリートレーナーとして、日本国内およびモンゴルでファシリテーター養成に関わる。2009-2019年まで、国際NGOセーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの子どもの保護セクターの分野別リードとして勤務し、主にアジア、国内、および東日本大震災緊急・復興支援事業に従事。前職は、東京都特別区内の子ども虐待対策チームメンバーとして、要保護児童支援業務を担当したほか、財団法人児童育成協会(こどもの城)、公立保育園に勤務。発達心理学(学士号/Scripps College)、福祉経営学(学士号/日本福祉大学)、国際子ども福祉(修士号/University of East Anglia)専攻。保育士。社会福祉士。

<東京YMCA便り>

▼第25回会員芸術祭開催中(オンライン方式)

会員、職員、児童館や保育園の子どもたち、高等学院の生徒等の作品の画像を掲載するオンライン方式で開催。絵画、写真、工芸、書道、手芸等91点の作品は9月末まで東京YMCAのHP上に公開されている。

▼バンラデシュYMCA同盟からの要請を受け、6月21日にバンラデシュのビリシリを襲った豪雨による洪水被災者緊急支援として、7月末に国際協力募金から約7,000ドルを送金した。現地スタッフを通して、500人の被災者に米、豆、オイル、じゃがいも、経口補水液等の食料が届けられた。

▼今後の予定

○第31回インターナショナル・チャリティーラン(アプリを使ったオンライン開催)

個人参加: 10月15日~22日 チーム参加: 10月22日~30日

○ウクライナ緊急支援チャリティーコンサート10月28日
会場: 日本基督教団霊南坂教会 参加費: 無料(会場募金依頼)

出演: 飯靖子氏(オルガン)・飯頭氏(ヴィオラ)・方波見愛氏(ピアノ)

今月および今後の行事予定

9月 3日(土) 14:30~	甲府やまなみクラブ国際協会加盟認証状伝達式(チャーターナイト)
9月14日(水) 19:00~	9月例会 東京YMCA西東京センター(部長公式訪問)
9月28日(水) 19:00~	第2例会(ZOOM開催)
9月30日~10月2日	ユースボランティア・リーダーズフォーラム(山中湖センター)
10月12日(水) 19:00~	10月例会
10月15日(土)	あずさ部部大会
10月26日(水) 19:00~	第2例会(ZOOM開催)